

大豆だより

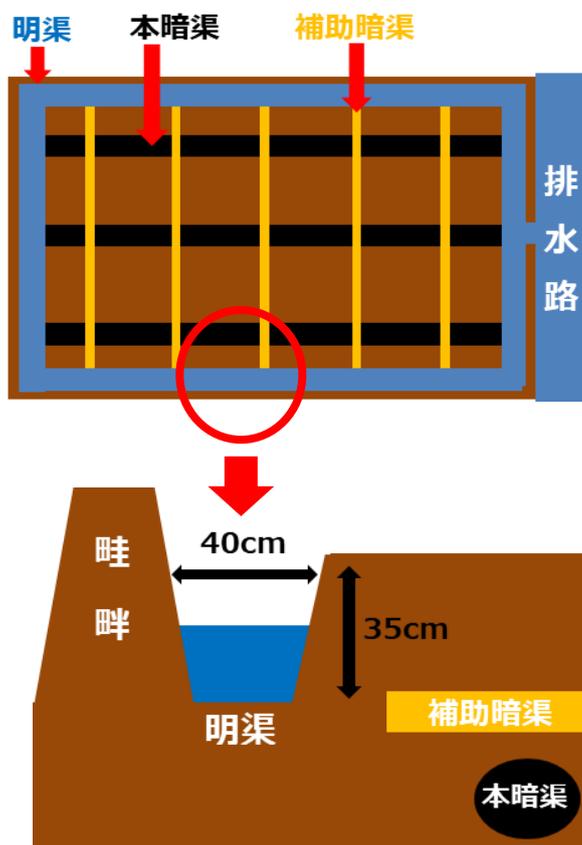
第1号
令和5年5月16日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8230

土づくりと排水対策で準備を万全に！播種適期は5/20～6/10！

【圃場の準備編】

1 排水対策

- ☑播種から生育初期にかけて湿害を受けると、生育が抑制され収量が低下します。
→ 湿害回避のため排水対策を徹底しましょう。
- ☑降雨の排水は地表からの排水が基本です。
→ 播種前に畦畔に沿って明渠を掘りましょう。
- ☑明渠の深さは **30～40 cm** として、確実に落水口に つなぎましょう。
- ☑排水が極度に悪い圃場では、圃場内にも適宜、明渠を掘りましょう。
- ☑水田転換畑は湿害が発生しやすいため、本暗渠に加え、補助暗渠（弾丸暗渠、籾殻暗渠、サブソイラによる耕盤破碎等）を積極的に組み合わせましょう!!



2 土づくりと施肥

- ☑大豆は地力依存度が高い作物で、吸収する窒素のほとんどを地力と根粒菌に依存しています。
→ 地力や根粒活性の低下は収量の低下に直結！
- ☑牛ふん堆肥 2～3t/10a などの有機物を施用し、地力を維持しましょう!!
- ☑根粒菌の活性と大豆の生育に最適な土壌 pH は 6.0～6.5 です。
→ 土壌 pH が 6.0 を下回る圃場は、**苦土石灰 100kg/10a** や **炭カル 120kg/10a** を施用して、酸度矯正を行きましょう!!
- ☑基肥の目安は、10a 当たりの成分量で **窒素 2.5kg、リン酸 7.5kg、カリ 10kg** です。
- ☑多量に窒素肥料を施用すると、根粒菌の着生と窒素固定量が減少するので注意しましょう。
- ☑大豆生育期の高温傾向により生育が旺盛となり、品種によっては、蔓化しやすい年が続いています。
→ 蔓化が予想される場合は、圃場の地力等の条件を考慮し、基肥を減らして対応しましょう。

LINE を活用した情報提供を行っています。

QR コードを読み取り登録の上、ぜひご活用ください！



【播種・雑草防除編】

1 種子の準備

☑紫斑病やネキリムシ等の初期の病害虫防除のため、種子消毒を必ず行いましょう。

2 播種量

☑播種量の目安は、里のほほえみ、秘伝 5kg/10a、シュウリュウ、リュウホウ 4~5kg/10aです。

※里のほほえみや秘伝等の大粒品種は、播種粒数不足にならないように注意。

3 播種適期

☑播種時期が遅れるほど生育期間が短くなり、節数、分枝数や着莢数が減少します。

→ 収量・品質の安定化のため、遅れずに播種しましょう!!

☑播種適期は、5月20日~6月10日です。晩限は6月20日!!

※6月20日より遅く播種する場合は、生育量不足を補うために2割ほど播種量を増やしましょう。

☑出芽安定のため、砕土率70%以上(直径1cm以下の土塊の割合)となるように耕うんしましょう。

☑最適な播種深度は3cm程度です。

※これより浅いと水分不足、これより深いと酸素や温度不足となり、出芽が遅れるので注意。

4 雑草防除

☑大豆の雑草防除は、土壌処理剤、茎葉処理剤、中耕培土で体系的な防除が重要です。

☑土壌処理剤は、土壌水分や破碎率により効果の振れが大きいので以下の3点に注意しましょう。

①丁寧な砕土・整地で砕土率を高める ②適度な土壌水分を確保 ③播種直後の適期に散布

5 帰化アサガオ類対策

☑管内で、帰化アサガオ類の発生が問題となっています。

☑帰化アサガオ類は、つる化すると防除は困難になり、

圃場にまん延すると収量が大きく減少します。

→ 早期発見・早期防除が決め手!

☑帰化アサガオ類の発生が確認されている圃場では、

土壌処理剤を確実に散布し、帰化アサガオ類に対して効果の高い茎葉処理剤を登録の範囲内で早めに散布します。

☑中耕培土を適期に実施し、取りこぼした場合は、適宜、除草剤散布や手取りで対応します。

→ 帰化アサガオ類の種子を作らせないことが重要!

☑あわせて、畦畔などの圃場周辺で発生を確認したら、ただちに抜き取り、圃場への侵入を防ぎます。

帰化アサガオ類の一例



マルバルコウ

マルバアサガオ

**STOP 農作業事故！転落・転倒事故を防止しましょう！
農薬は、ラベルをよく確認し適正に使用しましょう！**